

地区会開催

◆東北・北海道地区合同会議

平成26年5月29日(木)、札幌パークホテルにおいて、東北地区会(代表幹事：石塚卓美、東北インフォメーション・システムズ(株) 相談役)と北海道地区会(代表幹事：大谷勇、(株)HBA 代表取締役会長)との合同会議が開催された。参加者24名。

冒頭、大谷北海道地区会代表幹事から、来賓と会議及び講演会の紹介があり、本日の合同会議を有意義な会合にさせていただきたいと開会の挨拶をされた。

来賓の北海道経済産業局地域経済部・島田雄二次長は、北海道及び東北地域の最新の経済状況を報告され、北海道においては、「食」と「観光」の関連産業を戦略分野として位置付け、取組を強化しているが、この2つの分野では、ITの利活用が非常に重要であると強調し、今後とも地元の競争力強化に協力をお願いしたいと挨拶された。

議事に入り、最初に経済産業省商務情報政策局情報処理振興課・平山利幸課長補佐が経済産業省の情報政策について、平成26年度予算及び税制改正の概要について紹介した後、本年1月に設置され、サービス産業の生産性向上のために求められる具体的政策について検討をしている「サービス産業の高付加価値化に関する研究会」の概要について説明された。

JISA河野副会長・専務理事から、最近の経済・業界動向(主要経済指標、特サビ動態統計、DI調査、JISA基本統計2013)の説明の後、生産性向上設備投資促進税制の証明書発行について、テレワーク推進目標、「社会保障・税番号制度の円滑は導入のために」の提言活動、国際会議の予定、SPESへの参加者募集、JISA設立30周年記念行事等、最近のJISA活動を報告するとともに、厚生労働省委託事業によりJISAが企画・制作した「働き方・休み方改善ハンドブック」の紹介があった。

最後に、東北及び北海道地区会の石塚、大谷代表幹事から、両地域の経済情勢及びIT業界の動向等について、それぞれ報告があった。

休憩を挟んで、特定医療法人さっぽろ悠心の郷 ときわ病院 院長の宮澤仁朗氏による「身近な疾患『認知症』－診断検査・治療・ケアから予防まで－」と題する講演が行われ、認知症の発症原因と症状、その治療と予防などについて、実践事例を紹介しながら講話された。宮澤院長は、認知症検査の必要性を判断するための簡易なスクリーニングツール「Me-CDT」を共同開発されるなど活躍されている。

(菊池)